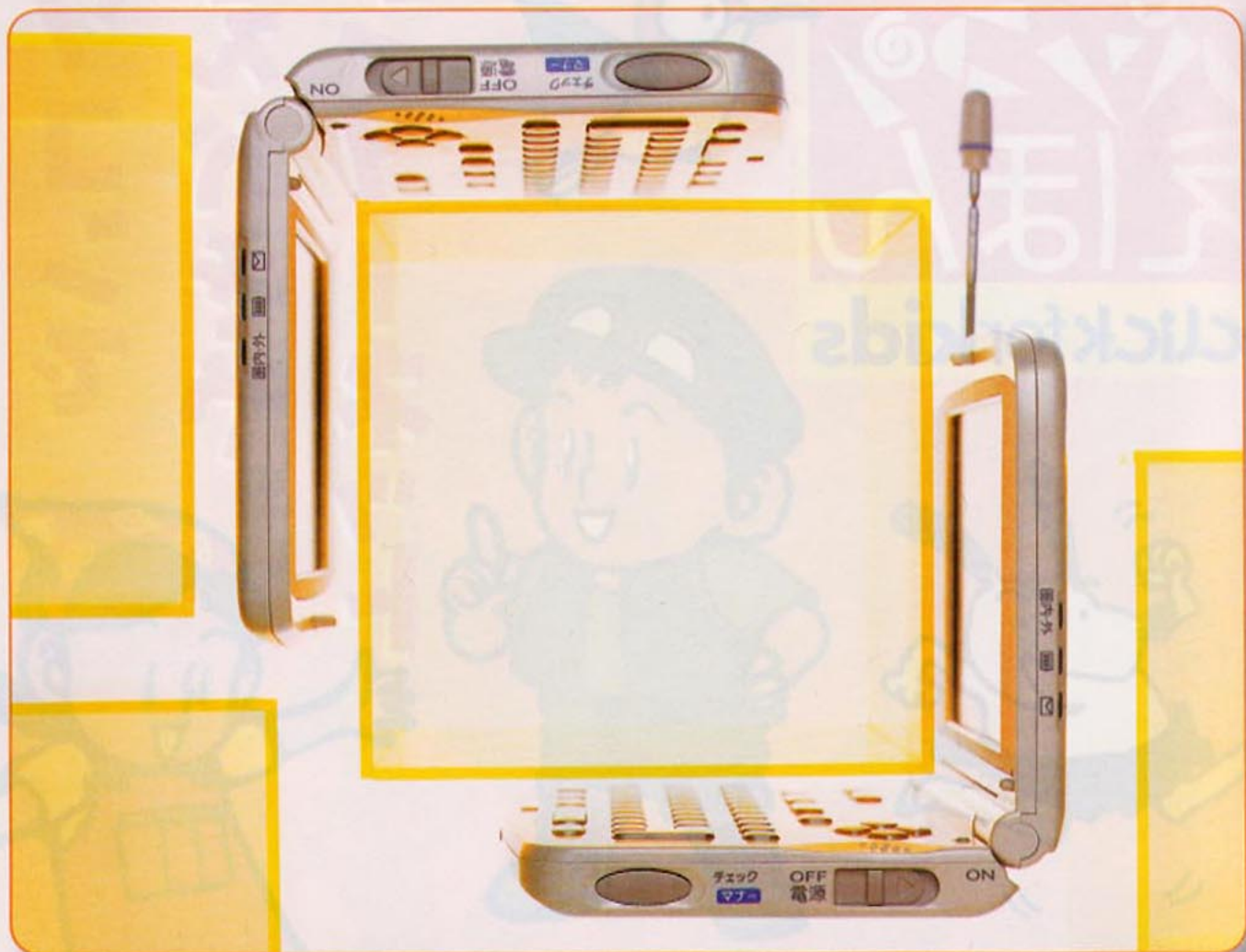




messageware exire

手になじむことを追求した あくまでシンプルな“携帯電話”

回線一体型で、携帯電話をつなぐ手間なくメールのやりとりやWebブラウジングができるエクシーレは、あくまで“持ってしっくりくる”ことを追求した、何ひとつ無駄のない、シンプルな、本当にシンプルなデザインを売りにしたメール端末だ。

シンプルさと寂しさが 同義語になっている

誕生のきっかけはNECがNTTドコモに持ち込んだ企画。当初はPHSを組み込むという案だったが、バケット通信を広めたいドコモの意向により、現在の規格に落ち着いたという。以降、「常にユーザー

の視点で意見を述べていったつもり」というドコモとNECの間で何度もやりとりを重ね、現在の形に仕上げた。

エクシーレの外装の特徴は、通信機能が内蔵されているということがひと目でわかるアンテナ部だろう。アンテナの引き出しやすさにも留意して付けられたカーブは、NEC製のiモード端末「N501i」を踏襲、この端末が“電話”であることをアピールしている。また、端末を閉じた状態でもメールの着信などがわかるインジケータも電話ならではのものだ。

残念なのは、N501iには見られる“端末を開いた時の、情報を受けと

るワクワク感”が踏襲されていない点だ。個人的に画面上を駆け回るキャラクターはうっとうしいと思っているし、仮名文字の印刷されたキーボードのうささは違和感を覚えていたので、これらを排除してシンプルさを追求したエクシーレの考え方には賛同できるはずなのに、どうも好意的になれない。それは、この端末では、シンプルと寂しいが同義語になっているためだ。外装に1つでも感情をかきたてるような造形が施されていたり、画面デザインが、もう少しスタイリッシュであったりすれば、まったく違う製品になっていたのではないだろうか。



アンテナ部分はN501iのデザインを踏襲。画面デザインやキーボード回りはあくまでシンプルさにこだわった。

PROFILE ● 酒井俊彦(さかいとしひこ)
サイカイデザインアソシエイツ代表。87年東京造形大学卒業。通産省選定グッドデザイン賞、アビターレイテンポ展(伊)、1995デザインの現在展(加)ほか。